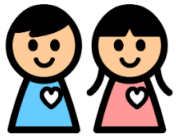


教育支援部ニュース



名古屋特別支援学校 教育支援部発行　令和8年度 第２号 R8.10月

事例検討で進める子どもの指導・支援講座報告

８月３日、名古屋市教育センターにて「事例検討で進める子どもの指導・支援講座」が開催されました。この講座は、市内の全校種（幼稚園から高校・特別支援学校まで）の教職員が集まり、具体的な事例をもとに、子どもの理解や支援方法を学ぶ研修です。本校の教育支援部主任は助言者（アドバイザー）として参加しました。

研修では、6 名前後の少人数のグループで活発な意見交換が行われました。一人ひとりに応じた授業づくりや日々の支援、車椅子を使用する児童生徒が過ごしやすい教室環境の整備、関係機関や教職員間の連携の在り方など、熱心な交流が行われました。

近年、市内の学校でも肢体不自由のあるお子さんの入学が増えてきていることから、学校生活のさまざまな場面で、誰もが安心して安全に過ごせるような細やかな配慮や工夫が必要となっています。また、身体の動きにサポートを必要とする児童生徒に対して、学習や生活のあらゆる面で、一人ひとりの個性に合わせた丁寧な支援が求められています。肢体不自由のある子どもたちへの支援の在り方を、学校の枠を超えて広く発信していくことは、特別支援教育に携わる私たちの役割であると考えます。



就学前施設見学報告

・７月 30 日、８月 25 日（各日４名）／愛知県青い鳥医療療育センター
医療型児童発達支援センター「どんぐり園」
・８月 18 日（10 名）／名古屋市北部地域療育センター「よつば」
・８月 27 日（4 名）／名古屋市西部地域療育センター

今年度は定員を超えるたくさんの参加希望がありました。子どもたちの就学前の様子への関心が年々高まってきているように思います。

今回の研修も施設の概要や保育の様子を見学させていただきました。どの施設もこの時期はプールの活動に力を入れていました。プールでは楽しく遊ぶだけでなく、少ない重力負荷の中で歩くきっかけをつかむお子さんもいるとか。1日30分程度、春や秋にも温水プールを行い、年間通してプール時間が確保されている施設もあるようです。

施設は子どもたちの支援と保育が主な役割ですが、母子（父子）登園にも昔から力を入れているところもあります。毎週決まった曜日に保護者と共に活動を行うことで家庭の力をつけると同時に保護者同士のつながりもできていき、保護者が育児に悩んだときに孤立しないようになっているそうです。実際に小学部低学年の保護者同士で良好な関係が築けているのはこういった施設での活動のおかげかもしれませんね。

参加した先生方からのアンケートには、「参加してよかった」や「もっと他の施設も見てみたい」などご好評をいただけました。参加枠が少ないところではありますが、多くの先生方に参加していただきたい研修となっています。



夏季研修会報告

「見てみよう特別支援学校」

＜校内の施設見学＞

校内の肢体不自由教育の学校ならではの設備を中心に案内をしました。参加した先生方は、熱心に見学をされ、「全てに子どもたちのための支援の工夫がされていて感心した。」などの感想がありました。また、見学前の学校紹介ビデオの視聴も含めて、教育課程や進路についての質問が多くありました。毎年実施している研修会ですが、参加者から寄せられる質問の内容は年によって異なります。今年度も多くの質問が寄せられて特別支援学校への関心の高さがうかがえました。

＜自立活動の指導について＞

自立活動に精通している教諭を講師に迎え、「肢体不自由のある子どもの基礎的指導、支援に関して」と「障害のある子どもの見え方、聞こえ方、感じ方」の二本立てで実際に体験を交えながら進めました。静的弛緩誘導法を基に考案された手の体操を参加者同士ペアになって行ったり、聞こえ方に特性のある子どもの絵本の読み聞かせの聞こえ方を体験したりすると、参加した先生方には、触れられた手が心地がよいと驚く様子や読み聞かせが聞き取れず戸惑う様子が見られました。手に触れることを通してのアプローチでは、鉛筆の持ち方の支援へ応用するなど、参加者が直面している困りごとに答える場面もありました。参加した先生方からは、



「実際に体験することで支援法や効果を理解することができた。」「自分の感じ方を当たり前と思わずに児童に寄り添いたい。」という声が聞かれました。広く本校の様子を知ってもらい、特別支援教育に携わる先生方と学びを共有する貴重な研修の機会になりました。

「特別支援教育のヒントと手立て」

＜今年度のテーマは「環境」＞

今年度は「環境」の視点から特別支援教育について参加した先生方と考えていきました。「環境」というと、視覚支援や合理的配慮という言葉を思い浮かべる方も多いと思います。前半の講義では、どのように視覚支援を取り入れるのか、どのような場面で合理的配慮が必要なのか、実際に行うときに気を付けることは何かなどを実際の教室の様子を示しながら進めました。

後半の「よりよい支援を考える」では、問題となる行動や場面をいくつか想定した動画を見た後、環境の整え方をグループで話し合い、最後は意見を発表し合いました。「学習内容や指導者も環境の一部である」という考えのもと、「普段からこのような学習をしておくとよいと思う」、「こういうことに気を付けて指導者は子どもに接するのがよいと思う」などの意見も出されました。この研修会は様々な校種の先生方が参加し、一緒に話し合いを行います。様々な立場からいろいろな意見が出される中、一致点を見付けてグループの意見としていきます。多様な環境、多様な意見について知り、一つのテーマについて考える貴重な時間になりました。

